ありがとう　さようなら

閉校にあたって

緑ヶ丘小学校　32年
本町田西小学校　29年
原　小　学　校　25年

町田市教育委員会は、子どもたちのより良い教育環境の整備、学校教育の充実を図るため、「学校適正規模適正配置事業実施計画（1999年３月策定）」に基づき、小規模化が著しい市立小学校の統合を進めています。

昨年４月の忠生第四小学校と木曽小学校の統合新設校『木曽境川小学校』に続き、本年４月には、本町田西・緑ヶ丘・原小学校が統合され『本町田小学校』が誕生します。

緑ヶ丘小学校は２月16日、本町田西小学校は２月２日、原小学校は３月２日に閉校式を行ない、３月31日をもって長い歴史の幕を閉じます。閉校にあたり、最後の学校長となる３校の校長にこれまでの学校を振り返っていただきました。

こころのふるさと　みどり小

緑ヶ丘小学校

８代校長
森　秀善

昭和45年、町田市21番目の学校として生まれた「緑ヶ丘小学校」。それは、32年前のことになります。これまでに本年度の卒業生を入れて、2822名の児童を送りだすことになります。

この間の学校の歴史を、周年記念誌をたよりに振り返ってみたいと思います。

開校当時は、学級数11、児童数281名でスタート、初代校長草山房太郎先生は「忘れ難い想い出は、6年生が４名だったことです」と記されています。

校章は、昭和47年３月に制定されました。デザインは、本校の保護者藤原よしみさんによるものです。「緑の文字を中心に、そこに根をおろした６本のいちょうは、1年から6年までを表し、天に向かって末広がりに伸びていってほしい」という願いがこめられています。また、校歌ができたのは、昭和47年のことです。作詞は若林牧春先生、作曲は平井康三郎先生です。

その後も児童数が増え続け昭和48年には、本町田西小学校が開校し、学区域を変更しました。しかし、昭和51年度には、学級数38学級で児童数１５０６名の東京一のマンモス学校になりました。当時の様子を、３代校長飯田俊郎先生は「1年生だけでも体育館がいっぱいになるという大きな学校になったのです。」と記されています。

その解消のために、昭和52年には、原小学校が開校し学区域を変更しましたが、児童数の増加は止まりませんでした。

昭和54年には、開校10周年を記念して「緑小音頭」ができました。それ以来、運動会や子ども祭には全校児童が踊る伝統的なものになりました。

昭和46年頃に北校舎から撮影した校庭(上)。道路を境に現在の原小学校が栗林だったことがわかる。(下)は開校当時の門標

しかしながら、これまで増え続けていた児童数も昭和55年を境とし、年々減少してきました。

私が着任した平成10年は、少子化の影響もあり、開校以来初めて全学年単学級になった年でした。でも、開校当時からの「みどり」という色にイメージされる子どもたちと保護者の皆様、教職員、そして地域の皆様方に囲まれてとても幸せに感じたものです。

それだけに、今年度で閉校する悲しさは、如何ともし難いものがあります。しかし、緑ヶ丘小学校は、卒業生、保護者、地域の皆様方、そして私たち教職員のこころの中に「こころのふるさと　みどり小」として永遠にあり続けていくと思います。これまで、本校の教育にご協力いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

誇りと希望を胸に

本町田西小学校

８代校長
飯田　國代

昭和48年４月１日、本町田西小学校は児童数５９６名、学級数17という規模でスタートしました。

同年６月８日に開校式を、８月８日には体育館工事起工、８月９日にはプール完成、12月27日には校旗制定、翌年３月16日には校歌制定、この日に「校旗・校歌」の発表会が実施されました。

このように初年度は、時間をかけてハード面の充実に力を入れてきました。

当然のことながら、始業式や入学式は校庭で行われました。児童は本町田西小学校が時間をかけて完成していく姿を目の当りにして過ごしていたわけです。

一方、学校の周りもこのたび撮影した航空写真にあるような豊かな緑はほとんどありませんでした。たくさんの苗木を寄贈してくださった方、それをこつこつと植えてくださった方等、多くの方々のお力添えがあって今日の豊かな緑になりました。

今では、児童に多くの実りを与えてくれています。栗・温州みかん・姫りんご・どんぐりなど生活科学習や「秋さがし」などにも一役買っており、先人の方々の熱き思いを肌で感じているところです。

昭和59年には、保護者と教職員の会で保護者の方々の協力を得て「朝の一声運動」が始まりました。交通安全のほか、「おはよう・こんにちわ・ありがとう」と気持ちのよいあいさつができる子を願って、毎朝本校の校門前の信号のところでどんな天候の日も一日も休まず継続してこられました。29年という輝かしい本町田西小学校の歴史を閉じる時にあたり、町田警察署・町田交通安全協会より保護者と教職員の会が「朝の一声運動」で表彰されました。

一方、学校では、町田市研究奨励校を隔年受け、教師としての資質向上に努力してきました。子どもたちに学力をつけるには、教師の努力の一歩からと励んできたことが今の教師にも脈々と受け継がれ、日々の児童指導の充実となって現れています。

先人の方々が地道に積み上げてきてくださった歴史の数々を誇りに思い、そして新生「本町田小学校」へ行くにあたっては、夢と希望を持って、児童には出発してほしいと願っています。

最後になりましたが、本校の教育の発展に大所高所からご支援ご助言を賜りました保護者・地域の皆様そして教育委員会に衷心よりお礼申し上げます。

本町田西小学校全景(上)。校庭中央は全児童が参加した校章の人文字。(下)は昭和59年から続けられている「朝の一声運動」

輝く伝統と新たな飛躍を祈念して

原小学校

６代校長
皆川　清

本校は、昭和51年母体校の緑ヶ丘小学校が１５００名を超す都内一のマンモス校となり、25年前の昭和52年４月に開校しました。かつて、この地一帯は雑木林や畑、そして、共同の茅刈り場だったそうです。原小学校あたりは、美しい緑で覆われたなだらかな栗林になっており、工事が進むにつれ木が切り倒され、地面が削られていくのは寂しい反面、地域も保護者も子どもたちも自分たちの学校が完成するのを楽しみに待っていました。学校開設にあたりこの雑木林や榎の大木等の自然環境を残そうと地主・教育委員会の皆様方の熱き思いが伝わって来ます。その後体育館・プール・えのき坂拡張・希望ケ池等教育環境も充実してまいりました。

また、本校の教育活動も一貫して、常に子どもたちの日々の授業を中心とした授業研究を通して教師は、学習に喜びを感じさせる授業の工夫、好ましい人間関係を作る、自らを磨き信頼される教師になるを目指してたゆまぬ努力をしてまいりました。その着実な成果は、延べ２３２６名にも及ぶ卒業生の各界での活躍にも顕著なものがあります。

最近の急激な社会の変化にともない、時代の変化に対応できる多様化が求められております。本校はこの変革に対し、情報化社会を主体的に生きていく基礎能力の育成、生活科・総合的な学習を通して生き生きと活動する子の育成、地域の歴史や自然を活用した協力授業等、すべての児童が充実感を味わえる教育を目指し、教職員一同努力してまいりました。

原小学校開校以来25年間、数々の苦難を乗り越え、学校と家庭・地域社会と手を携え努力してきた歴代の校長先生はじめ教職員・保護者の皆様、地域の皆様に感謝申し上げます。そして、新しい「本町田小学校」は、校舎が改修され、まさに21世紀に向け3校の良いところを取り入れた新しい伝統が創造され更に発展していくことを期待しております。文字通り「新しい酒は新しい革袋に盛れ」であります。

最後になりましたが、これまで教育委員会におかれましても多大なるご指導、ご助言をいただきまして誠にありがとうございました。お蔭様で25年の輝やく伝統に幕を閉じることができます。ありがとうございました。

原小学校全景。校章は全児童の人文字で描かれている。校舎は、2002年度中に全面改修され、３校の統合新設校「本町田小学校」の本校舎として生まれかわる

子どもたちの目が輝くとき

「なんなる算数タイム」

少人数指導に取り組んで

南成瀬小学校の3年以上の学年では、「なんなる算数タイム」、「にこにこ体育」と名付けた少人数集団による学習を今年度から進めています。

今年度から全国的に実施が始まった少人数指導への加配において、研究指定校として特別に４人の教員の加配をいただきました。

この少人数学習では、個に応じた多様な教育を行うために、学級の枠を越えて学習集団を弾力的に構成し、複数の教師が組織的に分担協力して指導を行っています。

「なんなる算数タイム」は、学級ごとの担任による指導ではなく、学年全体の子どもたちを４人の算数担当の教師で工夫しながら指導しています。子ども一人ひとりに身に付けさせたい基礎的・基本的な力を、その子のよさを生かしながら育てていこうと研究と実践を行っています。

一つの単元の中でも、いろいろな学習形態を工夫しています。授業のねらいが達成しやすいよう、内容に即したグループ別の学習形態にしたこともあります。この場合、どのグループで学習するかの選択を子どもたちがしています。

また、４等分の人数で分ける形態をとることもあれば、学年全体で一斉に学習することもあります。この場合は、複数の教師がひと教室で指導に当たっています。

３年生の「資料の整理」という単元では、「興味関心によるグループ別」の少人数学習に取り組みました。この学習では地域の道路に出て、車の通る様子をビデオに撮りました。「学校前の道路を走るダンプカーや乗用車の数を表にしたい！」「家の近所を走る車の数を表やグラフに！」という興味関心に応じて意欲を高め、課題の解決を図りながら学習のねらいを達成させました。

高学年では、単元のまとめの段階で力試しの問題を解き、それに基づき自己評価を行いました。その結果をもとに、「さらに基礎的な問題に充分に時間をとって学習するグループ」、「応用問題に多く取り組むグループ」といったグループを選択して学習を進めることも試みました。

モデルのない新しい取り組みにいつも頭がいっぱいですが、子どもたちが算数を好きになってくれることを喜びとして、これからも工夫していきたいと考えています。

（南成瀬小学校教諭　井上　陽子）

見て 見て これでいいの！

自分再発見

まちづくりは「人づくり」から

大谷智之

町田市の人口も21世紀に入り38万人を超し、全国でも有数の都市となりました。そして、市内各地域では魅力あるまちづくりが行われています。その中で自分自身が取り組んでいる幾つかの活動を紹介させていただきます。

一つは、「まちの駅」です。これは人と人の交流の場を造るためのもので、仲間たちと共に設立しました。運営場所は第3セクター「㈱町田まちづくり公社」にあり、その委員会に参加して駐車場経営を通し、これからのまちづくりをどのように進めてゆくべきか議論しました。自分たちの意見を反映させる作業は、とてもたくさんの労力と時間がかかりますが、結果として、女性リピーターを得るための具体的なアイデアを建物の中に盛り込むことができました。

さらに、「ぽっぽ町田」イベントホールの活用を考えるため「にろくの会」というまちづくりの会を立ち上げ、事務局長として朝市やチャレンジショップ等、様々な運用アイデアや情報発信を行っています。この「にろくの会」もNPO法人設立に向け準備中です。

また、今年度、中学校のPTA会長を受けさせて頂きました。学校では来年度から「総合的な学習の時間」が始まります。この中では、従来の教科書だけでは勉強できない様々な問題について、地域の魅力ある専門知識を持った方々に先生として指導してもらうことが必要になります。私は、学校と地域のパイプ役になれるのはPTAであると思います。「町田市公立中学校PTA連合会」の中でもどんなお手伝いが出来るかを提案しています。PTAが中心となれば今、希薄になっている学校と地域の係わり合いが一層深くなると思います。PTA活動は単年度制なのですぐには出来ないこともありますが、次につなげるためにも働きかけて行くことが私の活動のひとつと思っています。

環境の面では昨年、「第1回境川クリーンアップ作戦」というイベントを立ち上げ、実行委員長を務めさせて頂きました。私は、民間ボランティアの立場で、町田市と相模原市の市民が一同に集まり川そうじをすることで、新たな地域コミュニティーが生まれると思います。当日は１００人以上の人たちが集まり、大成功のうちに終わりました。

各地域が金太郎飴のように同じでなく、それぞれが特色のあるまちになることが私の願いです。

「まちづくりは人づくり」と言われるように、そのような仲間づくりを通して「ふるさと愛」が生まれてくるのではないでしょうか。景気も低迷し、先行きが見えない今日だからこそ、自分に夢を持ち、そして夢を子どもたちに語り続けられる輝く自分でいたいと思います。

境川クリーンアップ作戦実行委員会で事前の準備（上）。大成功に終わった当日の清掃作業

子どもの詩

詩集「町田の子55号」から

田植え

忠生一小五年　新藤　健樹

おばちゃんに
ざっ草みたいな苗をもらって
いまちゃんと田んぼに入った。
いまちゃんが土をふんだら
「ぶぶっ。」
という音がした。
「何だ。」
と言ったら、いまちゃんが
「本当のおならじゃないぞ。」
と言った。
土は変な感しょくだ。
ぶにょぶにょで
ねんどみたいだ。
一歩あるくのにすごく力がいる。
田植えはいっぱいやったら
きついなあと思った。

ひいおばあちゃんの手

町田五小四年　梅谷　詩乃

ひいおばあちゃんの手。
まるで　皮ふとほねだけみたいに
しわしわで　血管がよく見える。
わたしの手とくらべると、
すごいちがいだ。
ひいおばあちゃんが、
わたしの手をなでて、
「きれいな手だねえ。」
と言った。
ひいおばあちゃんの手は、
あったかくて、やわらかい。
いつまでも元気でいるといいなあ。

すきなもの

鶴川三小二年　さえき　ふみや

ぼくの大すきなものは、
こわれそうなグローブ。
お父さんが、
大学の時にもらったんだって。
きのう、おもいきって、
「ちょうだい。」
って、言ってみたら、
くれたんだ。
ライオンのがらだよ。
手を入れてボールをとるとき、
すごいやわらかいから、
ボールをとりやすい。
ぼろだけど、まだつかえるぞ。

昨年2月に発行された「町田の子」55号

「町田の子」56号が発行されます

詩集「町田の子」56号が2月下旬に発行されます。この詩集は、創刊以来35年以上の歴史をもち、各方面からも注目されています。市立小学校の児童の作品約３００編が三冊に収められ、町田の子どもたちの豊かな感性が伝わってきます。

一冊５００円で販売します。

問　町田市公立小学校教育研究会国語部（成瀬中央小学校　横山純子教諭　☎７２８・６０２０）

教育委員会の動き

10月～12月

平成13年10月から12月までの間に定例会3回、臨時会1回を開催。11件の議案を審議し、17件の報告を受けました。その主なものをお知らせします。

【選　挙】

○委員長選挙
選挙の結果、11月6日付で富川快雄委員が、教育委員長に就任しました。任期は1年です。

【議　案】

○まちだ市民大学HATSの設置及び運営に関する規則の一部を改正する規則について可決しました。
○町田市立国際版画美術館条例の一部を改正する条例（案）について可決しました。
○職員の職務に専念する義務の免除に関する規則の一部を改正する規則について可決しました。
○町田市教育委員会会議規則の一部を改正する規則について可決しました。
○町田市教育委員会事務局の組織等に関する規則の一部を改正する規則について可決しました。
○町田市公立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について可決しました。

【報告事項】

○平成13年度児童生徒・学級数推計について
○指定校変更許可基準の変更について
○「町田市小学校適応指導教室検討委員会」報告書について
○新しい成人式事業「二十祭まちだ」について